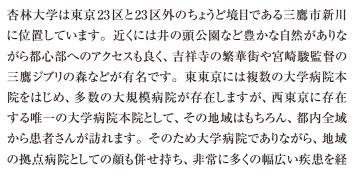
【東京都】杏林大学医学部付属病院



験することが可能です。ロボット支援手術もいち早く 導入し、最先端の医療技 術や知見を経験しながら、 早くから臨床に強い一人 前の泌尿器科医を育成で きる環境です。



	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
外来患者数 (初診)	2,956	2,617	2,463	1,892	2,263
新規入院 患者数	1,688	1,631	1,590	1,452	1,654

杏林大学医学部泌尿器科学教室について

杏林大学病院は大学病院としては診療科間の垣根も低く、医局内に学閥などは存在しません。泌尿器科学教室では、以前より様々な出身大学の先生が入局しています(杏林大、東京大、山梨医大、奈良医大、群馬大、東京医大、順天堂大、川崎医大、琉球大、埼玉医大、秋田大学、島根医大など)。現在、大学病院内では常勤医局員12名がスタッフとして勤務しており、ロボット支援手術は前立腺全摘術、腎部分切除術、膀胱全摘術、腎盂形成術、仙骨膣固定術、そして2022年度からは新たに腎摘除術、腎尿管全摘術、副腎摘除術を導入しており、現在保険適応であ



ロボット支援手術 (2022年末まで)

ロボット支援前立腺全摘除術	827 例
ロボット支援腎部分切除術	245 例
ロボット支援膀胱全摘術	116例
ロボット支援腎盂形成術	13例
ロボット支援仙骨膣固定術	32例

る事が当教室の最大の特徴です。

研究面では本年度より福原浩主任教授の下、前立腺癌に対する新たな治療法の開発を目的とする、ウイルス療法の臨床試験を開始しました。これは癌治療において免疫治療に次ぐ新たな癌薬物療法のブレークスルーになる可能性を秘めた治療法として、国内外から非常に注目されております。

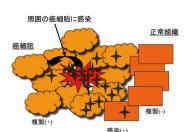
杏林大学泌尿器科専門研修プログラムについて

杏林大学泌尿器科専門研修プログラムは、基幹病院である杏林 大学を含め合計17の連携施設があり、このうちの14施設は都内 に位置し、12施設でロボット支援手術を導入しております。募集 定員は5名で、4年間の専門研修のうち1~2年を杏林大学病院 で研修することを原則としています。当教室の特徴でもある、一 人一人の個性やニーズに合わせた研修環境を提供することで、 専門医取得まで丁寧で面倒見の良い指導を行っております。ま

た、当教室は教育熱心な指導医が多く、医学部学生を交えたロボット操作体験実習も積極的に行い、Best teaching department賞を受賞しております。環境面で外ないても、給与面で外なす。においても、給与のでおります。でからなどでもでは女性を行っております。を提枠という、妊娠・育児などでキャリア支援をできなどでキャリア支援制度も充実しています。

連携施設

JCHO東京新宿メディカルセンター、JCHO東京山手メディカルセンター、河北総合病院、災害医療センター、東京西徳洲会病院、湘南鎌倉総合病院、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、国立国際医療研究センター、三井記念病院、同愛記念病院、東京警察病院、日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字社医療センター、青梅市立総合病院、名戸ケ谷病院











© The Japanese Urological Association.